

〔国 語〕

○ 実施時間 【8:30～9:20】(50分)

○ 次の注意をよく読んでおくこと。

- (1) 「始め」の合図があるまで問題用紙を開かないこと。
- (2) 問題は ～ 、14 ページまであります。
- (3) 答えはすべて解答用紙の解答らんにはっきりと、ていねいに書きなさい。
- (4) 答えを直すときは、きれいに消してから書きなさい。
- (5) 内容に関する質問は受け付けません。
- (6) 気分が悪くなったり、トイレに行きたくなったら、手をあげて監督^{かんとく}の先生に合図しなさい。
- (7) 「終わり」の合図があったら、直ちに筆記用具を置き、解答用紙が回収されるまで待っていなさい。
- (8) 解答上の注意
 - ・ 字数指定のあるものは、句読点〔。、〕および「」や（）なども一字と数えること。
 - ・ 文末表現は、「こと」、「から」など、問いにふさわしい形にし、文の終わりに句点〔。〕をつけなさい。

| | | | |
|----------|--|--------|--|
| 受験 番号 | | 氏 名 | |
|----------|--|--------|--|

- ① 次の——のカタカナを漢字に改めなさい。
- ② 犯人が事件のあらましをキョウジュツした。
- ③ 二国間でミツヤクが結ばれた。
- ④ 冬に備えてトウユを購入する。
- ⑤ 彼は一家のシチュウのような存在だ。
- ⑥ 新たなナイカクが誕生する。
- ⑦ その言葉は彼にはキンクだ。

① 次の——のカタカナを漢字に改めなさい。

- ⑦ 今年の夏は気温が高く、アツイ日が続いた。
- ⑧ 冬の寒い日にはアツイお茶が飲みたくなる。
- ⑨ 千羽鶴をオる。
- ⑩ この店では手オリの布を売っている。

② 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

えらくなんてならなくていい。周りを優しく暖かく照らせるような人になるのよ。

両親はそう言って、おれを日向と名付けた。父も母も、世の中に悪い人はいないと本気で思っているような善人で、たくさんの愛情を持っておれに接してくれた。

身体を動かすことが大好きだったおれが、最初に興味を持ったのは野球だ。小学校三年生になって、おれはリトルリーグのチームに所属した。住んでいる町には野球チームがなかったから、隣の市のチームに所属し、練習のたびに母親が送り迎えをしてくれた。野球は楽しかった。思いっきり身体が動かせるし、みんなで一緒にプレーするのも面白かった。おれがいたチームは二年生から六年生まで三十人近くいて、みんなで和気あいあいとやっていた。

四年生になった時、おれはレギュラーに抜擢された。レギュラーは五年生と六年生ばかりで異例のことだったけど、監督の期待どおりおれは大いに活躍した。足の速さを生かして盗塁を決め、ライトの守備でもファインプレーを見せた。そのたびに監督もみんなも喜んでくれていた。

「調子に乗るなよ」と言う先輩もいた。年下の上にも、おれだけ他の地域から参加している。面白くないと思うやつがいても当然だ。だけど、どんな相手であつても、人を嫌うのはよくない。いつも思いやりを持って接しなさいと教えられていたから、そんな先輩にもおれはにこやかに対応し、さらに努力を重ねた。周りからしてみると、そんなおれはよけいに気持ち悪かったにちがいない。おれに対して嫌な言葉を向けてくるチームメートは増える一方だった。けれど、そんなこと気にもならないくらいおれは野球に夢中になっていた。

そんな夏の練習試合の時だった。相手チームは去年のリトルリーグの優勝チームで、勝てそうもないと、始まる前からみんなのやる気は低かった。それでもおれは懸命にプレーをした。点数には繋がらなかったけど、ヒットを打って出塁し、盗塁も二つ決めた。しかし、意気込んでいたのはおれだけだった。十二点もの大量リードを奪われた四回の裏、攻撃が始まる前だ。監督に聞こえないよ

うに、「負けるんだからさ、さつさと終わらせようぜ」とキャプテンが言い、「そうだな。早く帰りたいな」と同意する声が聞こえた。とんでもない。どんな試合でも最後まで一生懸命にやるべきだ。おれは、「がんばろうよ。ちゃんとやろうよ」とみんなに言った。

その試合の後だった。ミーティングが終わり、荷物を片づけていたおれに、「いい子ぶってんじゃねえよ」と、キャプテンが球を投げてきた。危ないと、とっさに持っていたバットで球をはじき返した。運悪く、その球はキャプテンの顔に当たった。キャプテンは泣き叫び、みんなはひどいとおれを非難し、監督はなんてことをするんだと怒鳴った。そこから先はよく覚えていない。相手の家に両親と共に謝りに行き、そのままチームに退会届を出し、家に帰ったころには母親は泣いていた。

「野球がうまくなくなっちゃっていい。人を傷つけるような子にはなってほしくない」

母親はそう涙をこぼした。

「周りに妬まれるんじゃない。周りに慕われる人間にならなくちゃいけない」

父親も低い声で同じようなことを何度も言った。

両親の教えどおり、誠実に物事に向かっていたはずだった。人を傷つけた覚えもなかった。何が間違っていたのかわからない。ただ、みんなですポーツをするののすごく難しいことなのだ。それを思い知った。

③ そんなおれを救ってくれたのが、走ることだ。小学校五年生になった時、担任の先生から小学生陸上大会に出るように勧められた。野球をやめ、学校の体育クラブや授業で運動はしていたものの、物足りなさを感じていたおれを、陸上が救いだしてくれた。走ることは心地よかった。野球よりシンプルだけど、その分自分の力をはっきりと感ずることができた。ポジション争いもなければ、誰かに遠慮することなく思う存分力も発揮できる。野球をやめてばかり空いていた穴を、埋めてくれたのは陸上だった。

④ そして、走ることにのめりこみ始めるのと同時に、おれは二度と失敗を繰り返さないように注意深くになっていた。野球をやめた日、おれの味方は一人もいなかった。チームのために練習に励んでいたはずなのに、おれは嫌われ者でしかなかった。泣きじゃくるキャプテンを囲みながらみんながおれに向けた責めるような目は、いつまでたっても忘れられない。もうあんな思いはしたくない。野球を失ったみたいに、陸上まで失うわけにはいかない。

「大丈夫？」

部活終了後、グラウンドを出て行こうとしたおれに、設楽が声をかけてきた。

「え？」

「な、何か怒ってるのになって」

「まさか」

設楽が遠慮がちに言うのに、おれは自分の顔を触った。無意識に険しい顔になっていたのだろうか。

「き、気のせいじゃないんだ」

⑤ 「気のせいに決まってるじゃん。天気もいいし明日は土曜日だし、いいことばっかなのに」

おれは空を見上げて笑って見せた。五月も半ばに入った空はきれいな夕焼けを作っている。明日も明後日も雨など降りそうにない、すつきりとした空だ。

「そっか、そうだよな」

おれは「いちいち気にするなよ」と設楽の肩を揺すった。だけど、気のせいではなかった。設楽の言うとおりだ。驚いたことに、おれは湧き上がってきたきそうになるいらだちを抑えようと必死だった。

今年の四月、陸上部の顧問が満田先生から上原になった。中学校に入学してから、おれはずっと満田先生を信じてやっていた。厳しい練習もこなしたし、先生の期待に応えようと懸命だった。だから、顧問の交代に愕然とする気持ちにはめぐえなかった。でも、教師の異動は珍しいことではない。どうしたって状況は変わらないのだ。上原は見るからに頼りなさそうだけど、しかたない。がんばれば何とかやっつけていける。そう自分を納得させた。しかし、上原は想像以上だった。

最初のミーティングで、上原は陸上について何も知らないし、スポーツは苦手だと言いはなった。いざ練習が始まってみると、もっ

とひどかった。上原は練習メニューもわからず、アドバイスなどできもせず、ただおれたちを眺めているだけだった。

一ヶ月以上経ったというのに、今日も上原は「よくわからないけど、ペース走かな」と昨日と全く同じ練習メニューを発表し、ぼんやりとおれたちが走るのを見ていた。こんなことで強くなれるのだろうかという焦りは、日に日に増すばかりだった。そして、不安や焦りが高まるほど、怒りに近い気持ちが生まれてきた。こんな気持ちになるなんてよくないことだ。そうわかってはいても、いらだちを消すのは難しかった。

「駅伝もあるし、榊井は部長だし、いろいろ大変だからな」

設楽はまだ心配そうにしている。

「そんなの余裕、余裕」

「そう？」

「もちろん。さっさとメンバー集めて今年も駅伝は県大会出ようぜ」

「出られるかな」

⑧「出られるに決まってるじゃん」

不安を振りきるように、おれははっきりと言った。

市野中学校は十八年連続で駅伝の県大会に出ている。ここ最近生徒数が減ってきているけど、逃したことはない。それが途絶えるなんてことになったら、周りの落胆はただごとではないはずだ。陸上部員だって、部長のおれに失望するだろう。みんなをがっかりさせてはいけない。絶対に県大会進出は果たさなくてはいけないのだ。

(瀬尾まいこ『あと少し、もう少し』新潮社より)

問1 ①とありますが、周囲の人間は、日向のどのような様子に対して「気持ち悪かった」のだと考えられますか。六十字以内で答えなさい。

問2 ②とありますが、なぜ「おれ」は懸命にプレーしたのですか。理由として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分だけでも一生懸命プレーしなければ、相手チームに馬鹿にされると思ったから。

イ 自分が真剣にやっていたれば、キャプテンになれると思ったから。

ウ どんなことにも真心を持って臨むよう、両親と監督から言われていたから。

エ どんな試合でも、最初から最後まで投げ出すことなく全力でやるべきだと思ったから。

オ レギュラーとして出られた試合では、絶対に活躍しなければならぬと思ったから。

問3 ③とありますが、日向が陸上の魅力を述べている「続きの三つの文を探し、初めと終わりの五字を答えなさい。」

問4 ④は、日向のどのような気持ちを表した言葉ですか。本文中から五字でぬき出して答えなさい。

問5 ⑤とありますが、この状況を表す次の四字熟語の□にあてはまる漢字一字を答えなさい。

孤立 □ 援

問6 — ⑥とありますが、この時の「おれ」の気持ちを説明したものと最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 五月の半ばのきれいな夕焼け空を見上げ、明日からも頑張ろうと笑顔で自分をはげまし、前向きな気持ちになっている。
イ 自分のいらだちを設楽に指摘され、本当はいらだっていることを設楽に気づかれぬように、上を向いて笑ってごまかそうとしている。

ウ 自分が無意識にいらだっていることを設楽に理解してもらえ、自分は一人ではないとうれしくなり、友人のありがたみを感じている。

エ 自分のいらだちに気づいた設楽に余計な気をつかせてはいけなと考え、いっしょに夕焼けを見上げて二人の間に明るいついばきを作り出そうとしている。

オ 設楽のいらだちに気づいた自分は、にこやかな表情で空を見上げ、きれいな夕焼けを設楽に見せて励まそうとしている。

問7 — ⑦とありますが、日向がいらだっている理由として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 上原先生は頼りにならず、すぐに顧問を交代してもらえないと強く望んでいるのに、その願いがかなわないから。

イ 新しく顧問になった上原先生はスポーツが苦手で、的外れなアドバイスばかりしており、練習の邪魔に思えたから。

ウ 今年の四月以前顧問だった満田先生が上原先生に代わったことに焦っているようでは、満田先生の期待に応えることができないから。

エ 自分たちががんばれば何とかなるという考えが想像以上に甘いと気づき、野球を失った時のことを思い出したから。

オ 陸上のことを何も知らない上原先生はただ練習を見ているだけで、練習内容も毎日同じなので、強くなれるか不安に思えたから。

問8 — ⑧にこめられた日向の気持ちを、九十字以内で説明しなさい。

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ベネッセ教育総合研究所が小中高生を対象に実施した「学習基本調査 国際6都市調査（二〇〇七年）」と大学生を対象に実施した「第一回 大学生の学習・生活実態調査（二〇〇八年）」を見ると、「いい友だちがいると幸せになれる」という回答は、小学生から大学生まですべての年齢層で九割を超えています。また、社会学者の研究グループである青少年研究会が二〇一二年に実施した「都市在住の若者の行動と意識調査」では、現在の友だちの数が多く自己肯定感が増し、自分の将来は明るいと考える割合も多くなっています。現在の生活のためだけでなく、今後の人生を豊かなものにするためにも、Xと考えられている様子がうかがえます。

一般に、社会が豊かになって脱物質主義が進むと、人間関係の比重も増すといわれています。実際、日常生活において人間関係の重要性を示す調査データは、今日では枚挙にいとまがありません。若者たちがリア充（リアルな生活が充実している）と呼ぶ状態も、リッチで派手な生活などではなく、人間関係に恵まれた生活のことです。a的な豊かさからb的な豊かさへと人びとの関心が移動するにつれて、人間関係を重視せざるをえなくなっていくのは当然のことでしょう。しかし、現在の日本を高原期と捉える視点から眺めると、人間関係の比重が高まっている理由はそれだけではないことに気づきます。

いまイギリスでは、欧州連合（EU）からの離脱をめぐる政治の迷走が止まりません。メイ政権の協定案を否決した議会は、しかし代替案を示せないままです。

Y

いや、むしろその現実こそが、今日の不安定な政治状況を招いているといってもよいでしょう。民意がまとまらないことの反映が議会の混乱でもあるからです。

同じことは日本についても当てはまります。現在の日本にも、社会が進むべき方向について成長期のようなコンセンサスがありません。

せん。それは、A 原子力発電所の存廃をめぐって意見が大きく対立していることから容易に察しがつくでしょう。個々の人びとが日々の生活のなかで歩んでいくべき方向についても同じです。「今日よりも豊かな生活を」といった成長期のように明確な目標がないために、人びとはどちらへ向かって足を進めればよいのか分からなくなっています。(中略)いまの日本に存在論的不安が広がっている理由もここにありました。さらに今日では、人びとの価値観が多様なものになっていることに加えて、時と場合によってそれが大きく揺れ動くようになっています。その傾向に拍車をかけているのもまた高原期の到来です。

こうして、人生の羅針盤の不在に直面した今日のナウシカたちは、その指針の代わりに周囲の人びとの意見や反応に求めざるをえなくなっています。不変不動の方向を示す羅針盤が自分の内部に存在しえなくなったので、その代わりに対人リーダーをつねに作動させて周囲の人びとの反応を探り、それを指針の代用しようとしているのです。それがいわば自分の拠り所となつてい

一昔前のクルマのナビゲーションは、その装置内に設置されたジャイロスコープ(回転儀)によって自分の場所を確認していました。しかし現在のそれは、人工衛星が発する電波を受信して自分の場所を割り出すGPS(グローバル・ポジショニング・システム)にほとんど取って代わられています。それと同じことが人生の羅針盤にも起きているのです。

「日本経済新聞」に、一九八六年の日本航空の女性社員の入社式と二〇一〇年のそれを比較した写真が掲載されたことがあります(二〇一〇年九月一六日夕刊)。前者ではチェック柄のスカートやワンピース、白のハイヒールなど服装はまちまちで、髪型も多種多様だったのですが、後者ではもの見事に全員が黒のスーツ一色で、靴や髪型もみなそっくりです。二〇一〇年といえればちようど就職氷河期の頃ですから、おそらくその影響もあつたのでしょう。しかし、就職状況が好転した現在でもこの傾向は相変わらず続いていますから、理由はそれだけではないはずです。大多数がわりと似通った目標を追っていた成長期のほうが、新入社員たちが個人的な服装をしており、人によって目指すものが多種多様になった高原期のほうが、没個性的な服装になっている背景には、この人生の羅針盤をめぐる時代精神の変化があると思われる。それが若者たちに、c 化よりも d 化を求めさせるようになって

のです。

実際、それとまったく同じ傾向は、NHK放送文化研究所が実施している「中学生・高校生の生活と意識調査」にも見られます。

一九八二年の調査から二〇〇二年の調査までは、ものごとの判断を求められた際に自己主張をするという中高生が増えています。おそらく価値観の多様化や制度的共同体の弱体化とともに、自らの自主性を重んじようとする生徒が増えていたのでしょう。あるいは、一九八〇年代後半から始まった個性化教育の影響もあつたかもしれません。B その後は傾向が反転し、他人の意見に合わせるという中高生が増えてきます。価値観の画一化や制度的共同体の強化が再び見られるようになったわけでもないのに、いわゆる同調圧力がいま再び強まってきたのは、おそらく人生の羅針盤を内面に保ちにくくなったからではないでしょうか。そのため周囲の人間関係から自分だけが浮いて、居場所がなくなってしまうことを過度に恐れるようになったのだと考えられます。

(土井隆義『「宿命」を生きる若者たち——格差と幸福をつなぐもの——』岩波書店より)

注1 高原期……成長期の後に訪れた停滞期。

注2 メイ……前イギリス首相。

注3 コンセンサス……国民の合意。

注4 存在論的不安……なぜ自分は存在しているのかという不安。

注5 今日のナウシカたち……ナウシカは宮崎駿原作「風の谷のナウシカ」の主人公。ここでは現代を生きる多くの人々のことを指すと思われる。

注6 制度的共同体……社会の中での人間のつながり。

問1

X

に入る言葉として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 幸せになる必要がある
- イ 自分を肯定しておきたい
- ウ 友だちの役割が大きい
- エ 現在を大事にするべきだ
- オ 友だちは量より質である

問2 — ①とありますが、これは「枚挙にいとまがない」という慣用表現です。この表現の意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 探し出すことができない。
- イ 貴重なものになっている。
- ウ ひまな時でないと読めない。
- エ 多すぎて数えきれない。
- オ 意味がないとされている。

問3

a ~ d に入る言葉の組み合わせとして、最もふさわしいものを次のア ~ カから選び、記号で答えなさい。

- ア a : 物質 b : 精神 c : 同質 d : 根本
- イ a : 物質 b : 精神 c : 差異 d : 同質
- ウ a : 精神 b : 表面 c : 根本 d : 差異
- エ a : 精神 b : 表面 c : 同質 d : 根本
- オ a : 表面 b : 物質 c : 差異 d : 同質
- カ a : 表面 b : 物質 c : 根本 d : 差異

問4

Y

次の三つの文を並びかえて本文中の Y に入れるとしたら、最後にくるものはどれですか。最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア それとまったく同じ構図は、日常生活における個別の人間関係においても見られます。
- イ かつてイギリスで二大政党制が有効に機能したのは、貧富の差という単純明快な争点で対立軸が形成されていたからです。
- ウ しかし現在では、社会のあり方をめぐって同じ政党内でも様々な主張が入り乱れ、同じ土俵に立って議論を戦わせることが難しくなりました。

問5

A・B に入る言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア もし
- イ ところが
- ウ なぜなら
- エ だから
- オ たとえば

問6 — ②について、次の各問いに答えなさい。

(i) 今日より以前の「人生の羅針盤」とは、どのようなものでしたか。四十字以内で答えなさい。

(ii) 「人生の羅針盤」を失った人々は、人生の進む方向をどのように決めるようになりましたか。三十字以内で答えなさい。

問7 次の会話文は、本文を読んだ上で獨太君と協平君が話し合っている場面です。――のように「周りに合わせなければいけない」と思わせるものを表す言葉を、本文中から漢字四字でぬき出しなさい。

獨太 人々の考え方がさまざまなものになってきたからこそ、かえって他人の目を気にしてしまうというのは、なんともおかしな話だね。

協平 どんな生き方を選ぶのが正解かわからないというのも、不安だろうね。

獨太 周囲の人間関係を気にして、周りに合わせなければいけないと感じる。自分の居場所がなくなることは、こわいもんね。

協平 ぼくたち中学生の中にも、共感する人が多いと思う。もっとこのことについて君と話したいんだけど、いいかな。

獨太 もちろん。とことん話し合おう。

このページに設問はありません